

ご挨拶

鈴鹿テニス協会会長
伊藤三雄



鈴鹿テニス協会の設立 50 周年心からお慶び申し上げます。

この 50 年間、各役員や加盟団体の皆様が協会のためにご努力をいただき、現在は、加盟団体数 34 団体、会員数約 850 名を数える大所帯で、県下でも高位の会員数を誇る協会として成長を遂げてきました。協会を支えてこられた歴代の役員や会員のひとかたならぬご苦勞、ご尽力に対し、改めて深い敬意と感謝を申し上げる次第です。

近年、世界のテニス界は、依然ジョコビッチ、フェデラー、ナダルがトップで活躍し日本男子では錦織圭選手、女子では大阪なおみ選手が話題を集めている状況ですが、地元三重の選手西岡良仁選手の活躍も見逃せません。そうした中で今年は、令和元年の幕開けと同時に四日市テニスセンターにて ATP チャレンジーツアー四日市チャレンジャー大会が 8 月上旬に開催されました。連日多くの方が試合の応援に駆けつけ、一流プロの技術、試合の雰囲気の間近で見て、学べる機会ができたことは大変喜ばしいことです。世界で活躍するプロ選手や、三重にゆかりのある伊藤竜馬選手、島袋将選手の健闘ぶりもあり大いに盛り上がりを見せてくれました。まさに、するスポーツ、観るスポーツ、応援、期待感をもってテニスを楽しめる最高の場づくりが身近に整ってきていると感じます。また、2 年後の 2021 年には三重県において国体も開催され地元テニス選手の活躍に期待をもって応援できることを楽しみにしたいと思います。

当協会においてもテニス愛好者を増やすテニス教室や普及大会等を定期開催し、強化事業としては長期強化計画の一環としてジュニア強化活動、(小中学生対象の一環指導)を実施し選手育成に、一般では、郡市対抗への参加と上位進出を目標とした活動の取り組み、また、これらを含めた関係大会として年に 14 大会を開催しテニス愛好者増加、選手強化、競技力向上につなげています。これも各団体、会員の方々のご協力をもって成し遂げている事は、感謝の念に堪えません。

今後も地域協会としてテニスを楽しめる、夢をもって、県、日本、世界へ橋渡しができるビジョンをもち、真摯に取り組み、各目標に向かって活動できる協会になっていけるように応援をしていきたいと存じます。

会員皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

祝辞

鈴 鹿 市 長
末 松 則 子



この度、鈴鹿テニス協会が創立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

この記念すべき節目を迎えられたのも貴協会の歴代役員の方々をはじめ、関係者の皆様のたゆまぬご努力の賜物と心より敬意を表します。

貴協会は鈴鹿市におけるテニスの普及・発展、体力の向上とスポーツ精神を通じて、知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成に努めることを目的に昭和44年に創立されました。以来、鈴鹿テニス選手権大会をはじめとした各種大会を開催され、競技力の向上や指導者の育成など、本市のスポーツ振興に多大な貢献をいただいております、深く感謝を申し上げます。

本市は、平成14年4月に「鈴鹿市いきいきスポーツ都市」を宣言し、市民一人ひとりのスポーツをめざしています。貴協会の子どもからシニアまで幅広い世代が生涯にわたりテニスを楽しめる活動が青少年の健全育成、市民の健康保持増進、体力向上に大きく寄与するものと期待しています。

貴協会におかれましては、今後も引き続き、本市のスポーツの普及、振興にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、創立50周年を契機に、「令和」の時代を新たな出発点として、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉いたします。

さらなる飛躍を！

特定非営利活動法人鈴鹿市体育協会会長
熊 沢 逸 雄



鈴鹿テニス協会が設立され、数々の実績とともに、ここに創立50周年を迎えられましたことは、誠に意義深いことであり心からお祝い申し上げます。

また、今日までの協会関係者の皆さまの御苦勞と御努力、活動に心から感謝を申し上げます。重ねて体育協会の諸事業が着々と推進できますことは、皆様方の御支援と御協力の賜物と心から御礼申し上げます。

さて、近年、市民のスポーツ活動や健康増進への関心が高まる中で、技術の向上はもちろんでありますが、生涯スポーツとしてテニスを広く市民の中に普及されてこられた貴協会の活動は大変意義があるものと確信いたしております。

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが2021年には三重とこわか国体・とこわか大会も開催されます。また、鈴鹿市では本年度にスポーツ推進計画を策定し、新たな取り組みが始まっています。

そのような中、鈴鹿テニス協会の皆様方には、今後ともテニスの普及発展並びに体育向上とスポーツ精神を通じての品性の修養に御尽力を賜りたいと願うものであります。

最後に、鈴鹿テニス協会の役員や会員の皆様の活動に心から敬意を表しますとともに、この50周年をひとつの契機とされまして、貴協会のさらなる飛躍と益々の発展を祈念申し上げましてお祝いのごあいさついたします。

鈴鹿テニス協会 50 周年にあたって



鈴鹿テニス協会理事長

勝 田 成 仁

令和元年という新元号を迎えた年に、鈴鹿テニス協会が 50 周年という記念すべき年を迎えられましたことは、ひとえに関係団体や組織のご理解とご協力、さらには協会会員皆様の支えによるものと深く感謝いたします。

さて、近年の錦織選手や大坂選手の活躍は世界レベルで目覚ましく、来年迎える東京オリンピックでのメダル獲得を、テニスファンのみならず日本人なら誰もが期待するところです。

そのような中、テニス人口は緩やかな減少傾向にあるものの、テニスは生涯スポーツとして幅広い層での人気スポーツと認識しています。本市のテニス環境は、県営鈴鹿スポーツガーデンをはじめ市営テニスコート、サンスポーツランド、また主たる企業のテニスコートなどと恵まれた地域にあります。しかしながら最近では、県協会、市協会ともに試合への参加者が減少し、協会運営にも支障をきたしています。一方、普及者大会では予想以上の参加者があり、新たな協会運営の必要性を考えさせられています。

ジュニアの強化・普及に関しましては、協会強化部の熱心な指導により、全国レベルのジュニア選手を輩出しており、今後の活躍が大いに期待されています。

当協会も本年 4 月に役員改選を行ない、新たに理事長の大役を仰せつかりました。伊藤前理事長の培ったノウハウを生かしながら、若くフレッシュな体制でこれからの協会運営を担ってまいりますので、今後とも協会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年 7 月にご逝去されました、当協会顧問であられ約 40 年にわたり当協会にご尽力いただきました大谷光司様のご冥福をお祈りいたします。